

業況 DI は 26.7 ポイントの低下

《リーマンショック後を超える急激な悪化》

～令和 2 年 4・6 月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和 2 年 4・6 月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

1. 総合の業況 DI

- ・前期比 26.7 ポイント低下の▲62.1 となり、リーマンショック時に匹敵する数値となりました。今回のコロナ禍による業況 DI の低下幅（26.7 ポイント）は、リーマンショック後＜平成 21 年 1・3 月期＞の低下幅（12.4 ポイント）を大きく上回るものとなりました。
- ・経営状況では、売上 DI は前期比 31.7 ポイント低下の▲66.7、また、採算 DI は同 23.3 ポイント低下の▲58.4 となりました。

2. 業種別の業況 DI

- ・製造業は前期比 24.6 ポイント低下の▲64.0 となりました。中分類では、一般機械は同 23.7 ポイント低下の▲63.0、電気機械は同 20.8 ポイント低下の▲53.2、輸送用機械は同 35.8 ポイント低下の▲83.3 となりました。
- ・建設業の業況 DI は、前回まで唯一プラスでしたが前期比 37.1 ポイント低下の▲25.6 となり、3 年ぶりにマイナスとなりました。
- ・商業・サービス業の業況 DI は、前期比 25.1 ポイント低下の▲68.7 となりました。商業・サービス業の内訳を見ますと、卸売業は同 24.5 ポイント低下の▲68.5、小売業は同 18.2 ポイント低下の▲75.0、飲食店は同 42.2 ポイント低下の▲97.2、サービス業は同 27.2 ポイント低下の▲44.5 となりました。

3. 今後の総合の業況 DI

- ・3 ヶ月後は現在比 11.2 ポイント低下の▲73.3、半年後は同 1.7 ポイント低下の▲63.8 を見込んでいます。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

事業部経営総合相談課 小菅

TEL 045-633-5201 FAX 045-633-5194

URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail: soudan@kipc.or.jp

令和2年4-6月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは26.7ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和2年4-6月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和2年5月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,055社（52.8%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	362	65.8%
建設業	250	121	48.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	572	47.7%
合計	2,000	1,055	52.8%

2. 調査結果

（1）総合

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲27.9	▲33.5	▲35.4	▲62.1	▲73.3	▲63.8
売上DI	▲25.7	▲24.8	▲35.0	▲66.7	—	—
採算DI	▲31.7	▲31.8	▲35.1	▲58.4	—	—

総合の業況DIは、前期比26.7ポイント低下の▲62.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比31.7ポイント低下の▲66.7、また、採算DIは同23.3ポイント低下の▲58.4となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比11.2ポイント低下の▲73.3、半年後は同1.7ポイント低下の▲63.8を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲24.1	▲30.7	▲39.4	▲64.0	▲80.5	▲69.8
売上DI	▲25.1	▲27.0	▲36.3	▲74.9	—	—
採算DI	▲28.8	▲29.9	▲36.4	▲64.0	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比24.6ポイント低下の▲64.0となった。

経営状況では、売上DIは、前期比38.6ポイント低下の▲74.9、採算DIは同27.6ポイント低下の▲64.0となった。

「2～3月中国の受注減少。4～5月中国の受注回復、国内の受注減少。」「コロナ影響！アミューズメント（パチンコ）部品注文0に。複合機部品は、厳しくなりました。逆に消毒部品及びマスク部品が新規に発注有ります。」「4月、5月が新型コロナによる緊急事態宣言によって、仕事がぱったり止まった。この先は、見通しがつかないのが現状です。新型コロナの終息を一日も早くできる事を願っております。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3ヵ月後は現在比16.5ポイント低下の▲80.5、半年後は同5.8ポイント低下の▲69.8を見込んでおり、「4～6月期も、それ以降もだんだん悪くなって行く予想。助成金（雇用調整）、給付金、無利子借入に頼ったとしても苦しい時期が続くのではないか。」「米中貿易摩擦で、売上減少しているところに、新型コロナウイルスの影響で、さらに悪化。景気の見通しが立たない。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
一般機械	▲17.9	▲31.5	▲39.3	▲63.0	▲82.4	▲73.3
電気機械	▲33.3	▲35.8	▲32.4	▲53.2	▲72.7	▲63.6
輸送用機械	▲23.6	▲32.3	▲47.5	▲83.3	▲88.3	▲66.7
その他	▲23.4	▲26.2	▲39.7	▲62.3	▲80.0	▲72.6

中分類で見ると、一般機械は前期比23.7ポイント低下の▲63.0、電気機械は同20.8ポイント低下の▲53.2、輸送用機械は同35.8ポイント低下の▲83.3となった。

今後の業況DIは、3ヵ月後は一般機械が現在比19.4ポイント低下の▲82.4、電気機械が同19.5ポイント低下の▲72.7、輸送用機械は同5.0ポイント低下の▲88.3、半年後は一般機械が同10.3ポイント低下の▲73.3、電気機械が同10.4ポイント低下の▲63.6、輸送用機械は同16.6ポイント上昇の▲66.7を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	1.7	3.1	11.5	▲25.6	▲60.2	▲61.7
売上DI	▲7.8	0.8	▲4.1	▲52.1	—	—
採算DI	▲13.0	▲4.6	▲6.6	▲43.0	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比37.1ポイント低下の▲25.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比48.0ポイント低下の▲52.1、採算DIは同36.4ポイント低下の▲43.0となった。

「コロナの影響により一般からの問合せがなくなった。今後の見通しがつかない。」「現在は、工事中断現場も多く、悪影響を受けているが、今後もホテルや商業ビルの建設設備投資が減る事によるダメージがやってくる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3ヵ月後は現在比34.6ポイント低下の▲60.2、半年後は同36.1ポイント低下の▲61.7を見込んでおり、「今後、コロナウイルスの関係で受注のキャンセルや納期繰延が発生してくる。戸建て住宅が売れなくなるのではと心配です。公共事業はなかなか落札できずにいます。労働者の高齢化で、人材不足です。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲37.1	▲44.6	▲43.6	▲68.7	▲71.5	▲60.3
売上DI	▲30.2	▲29.6	▲41.5	▲64.5	—	—
採算DI	▲37.9	▲40.1	▲41.0	▲58.1	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比25.1ポイント低下の▲68.7となった。

経営状況では、売上DIは前期比23.0ポイント低下の▲64.5、採算DIは同17.1ポイント低下の▲58.1となった。「新型コロナウイルスの影響で、販売先百貨店が休業の為、また、直接小売も自粛の為、売上が80%以上減っている。」「商品が不足している。中国からの部品がないので、製品が出来てこない。コロナで人が出てこない。」「営業時間の短縮（新型コロナウイルスの影響）を余儀なくされ、売上、粗利の低下。」「新型コロナウイルスで、業績が悪化すると思っていたのですが、思いの外悪くなく、昨年の大型連休よりも売上が良い。持ち帰り、出前の注文が増加している。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.8ポイント低下の▲71.5、半年後は同8.4ポイント上昇の▲60.3を見込んでいる。「新型コロナウイルスが終息しなければ、先が見えないです。今までの経営のあり方を大きく見直さないと生き残れないでしょう。」「コロナの影響で、時間短縮営業が続く今後、乗り越えられるかどうか?!。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
卸売業	▲16.1	▲34.8	▲44.0	▲68.5	▲83.8	▲73.5
小売業	▲55.0	▲58.0	▲56.8	▲75.0	▲84.7	▲79.5
飲食店	▲40.0	▲53.5	▲55.0	▲97.2	▲94.2	▲82.4
サービス業	▲18.2	▲23.9	▲17.3	▲44.5	▲30.1	▲2.3

業種別では、卸売業は前期比24.5ポイント低下の▲68.5、小売業は同18.2ポイント低下の▲75.0、飲食店は同42.2ポイント低下の▲97.2、サービス業は同27.2ポイント低下の▲44.5となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比15.3ポイント低下の▲83.8、小売業は同9.7ポイント低下の▲84.7、飲食店は同3.0ポイント上昇の▲94.2、サービス業は同14.4ポイント上昇の▲30.1、半年後では卸売業が同5.0ポイント低下の▲73.5、小売業は同4.5ポイント低下の▲79.5、飲食店は同14.8ポイント上昇の▲82.4、サービス業は同42.2ポイント上昇の▲2.3を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和元年		令和2年			
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
中規模	業況DI	▲24.0	▲30.4	▲32.5	▲59.0	▲70.3	▲59.9
	売上DI	▲21.9	▲20.0	▲27.9	▲62.6	—	—
	採算DI	▲31.3	▲31.9	▲33.6	▲56.5	—	—
小規模	業況DI	▲32.7	▲37.1	▲38.6	▲65.7	▲76.7	▲68.3
	売上DI	▲30.3	▲30.3	▲42.9	▲71.3	—	—
	採算DI	▲32.1	▲31.8	▲36.9	▲60.5	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比26.5ポイント低下の▲59.0、小規模企業は同27.1ポイント低下の▲65.7となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比34.7ポイント低下の▲62.6、採算DIが同22.9ポイント低下の▲56.5、小規模企業は売上DIが同28.4ポイント低下の▲71.3、採算DIが同23.6ポイント低下の▲60.5となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比11.3ポイント低下の▲70.3、半年後が同0.9ポイント低下の▲59.9、小規模企業は3か月後が同11.0ポイント低下の▲76.7、半年後が同2.6ポイント低下の▲68.3を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和元年		令和2年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
横浜	▲21.9	▲29.3	▲31.7	▲64.6	▲77.3	▲68.1
川崎	▲23.4	▲27.2	▲27.2	▲47.1	▲66.7	▲58.6
横須賀	▲25.5	▲35.8	▲46.0	▲56.1	▲62.5	▲51.6
平塚	▲30.2	▲29.1	▲33.7	▲63.2	▲76.2	▲66.3
藤沢	▲39.2	▲49.5	▲44.2	▲64.9	▲76.4	▲67.9
相模原	▲28.9	▲36.8	▲34.4	▲58.8	▲77.2	▲66.7
厚木	▲20.9	▲23.4	▲26.9	▲67.2	▲68.4	▲57.4
足柄上・西湘	▲46.5	▲47.1	▲48.1	▲74.8	▲76.7	▲68.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比32.9ポイント低下の▲64.6）、川崎地区（同19.9ポイント低下の▲47.1）、横須賀地区（同10.1ポイント低下の▲56.1）、平塚地区（同29.5ポイント低下の▲63.2）、藤沢地区（同20.7ポイント低下の▲64.9）、相模原地区（同24.4ポイント低下の▲58.8）、厚木地区（同40.3ポイント低下の▲67.2）、足柄上・西湘地区（同26.7ポイント低下の▲74.8）となり8地区全てで低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比12.7ポイント低下の▲77.3）、川崎地区（同19.6ポイント低下の▲66.7）、横須賀地区（同6.4ポイント低下の▲62.5）、平塚地区（同13.0ポイント低下の▲76.2）、藤沢地区（同11.5ポイント低下の▲76.4）、相模原地区（同18.4ポイント低下の▲77.2）、厚木地区（同1.2ポイント低下の▲68.4）、足柄上・西湘地区（同1.9ポイント低下の▲76.7）となり8地区全てで低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比3.5ポイント低下の▲68.1）、川崎地区（同11.5ポイント低下の▲58.6）、横須賀地区（同4.5ポイント上昇の▲51.6）、平塚地区（同3.1ポイント低下の▲66.3）、藤沢地区（同3.0ポイント低下の▲67.9）、相模原地区（同7.9ポイント低下の▲66.7）、厚木地区（同9.8ポイント上昇の▲57.4）、足柄上・西湘地区（同6.8ポイント上昇の▲68.0）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

事業部経営総合相談課 小菅

TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和2年4月～6月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		362	121	108	245	72	147	572	1,055
業況判断	現在の業況	▲64.0	▲25.6	▲68.5	▲75.0	▲97.2	▲44.5	▲68.7	▲62.1
	3ヶ月後の業況	▲80.5	▲60.2	▲83.8	▲84.7	▲94.2	▲30.1	▲71.5	▲73.3
	半年後の業況	▲69.8	▲61.7	▲73.5	▲79.5	▲82.4	▲2.3	▲60.3	▲63.8
経営状況	売上	▲74.9	▲52.1	▲77.6	▲80.0	▲97.2	▲6.9	▲64.5	▲66.7
	採算	▲64.0	▲43.0	▲70.1	▲70.1	▲90.3	▲10.9	▲58.1	▲58.4
	引き合い／客数	▲69.6	▲58.8	▲47.7	▲70.1	▲94.4	▲62.6	▲67.0	▲67.0
	単価	▲22.2	▲13.3	▲54.2	▲49.8	▲77.5	▲77.6	▲61.2	▲42.2
	仕入価格	▲22.1	▲20.7	▲20.8	▲30.7	▲36.2	▲70.4	▲39.6	▲31.4
	資金繰り	▲56.8	▲24.8	▲55.1	▲61.8	▲83.1	▲68.7	▲65.0	▲57.6
	残業	▲66.4	▲47.9	▲55.1	▲46.7	▲88.2	▲66.7	▲58.5	▲60.0
	設備稼働	▲67.8	▲33.6	—	—	—	—	—	▲59.6
前期経営実績	売上水準	▲31.6	2.5	▲53.7	▲57.6	▲65.3	▲51.4	▲56.2	▲41.0
	利益水準	▲9.7	9.9	▲27.8	▲41.6	▲58.3	▲36.4	▲39.8	▲23.7
	在庫	11.1	▲2.8	11.3	▲2.0	5.9	▲18.7	▲2.7	2.1
	投資	▲18.6	▲12.4	▲17.9	▲27.6	▲35.7	▲49.3	▲32.3	▲25.3
	雇用状況	4.7	▲32.8	0.9	1.3	5.7	▲48.2	▲10.9	▲8.0

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和2年1月～3月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		356	123	100	223	62	140	525	1,004
業況判断	現在の業況	▲39.4	11.5	▲44.0	▲56.8	▲55.0	▲17.3	▲43.6	▲35.4
	3ヶ月後の業況	▲41.4	▲19.0	▲51.5	▲54.8	▲46.7	▲3.6	▲39.5	▲37.8
	半年後の業況	▲36.3	▲29.3	▲46.4	▲56.9	▲41.7	▲2.5	▲39.8	▲37.3
経営状況	売上	▲36.3	▲4.1	▲45.0	▲52.5	▲56.5	▲11.3	▲41.5	▲35.0
	採算	▲36.4	▲6.6	▲35.4	▲45.3	▲61.3	▲28.6	▲41.0	▲35.1
	引き合い／客数	▲30.1	▲11.6	▲26.3	▲53.8	▲51.6	▲27.9	▲41.4	▲33.8
	単価	▲11.9	▲1.7	▲21.9	▲33.8	▲26.7	▲28.5	▲29.3	▲19.7
	仕入価格	▲32.7	▲30.6	▲33.7	▲39.4	▲56.5	▲26.5	▲36.9	▲34.6
	資金繰り	▲27.5	▲10.8	▲25.3	▲40.4	▲46.8	▲28.5	▲35.1	▲29.5
	残業	▲31.3	▲8.4	▲24.7	▲25.0	▲27.6	▲30.7	▲26.8	▲26.2
	設備稼働	▲32.4	▲9.5	—	—	—	—	—	▲26.7
前期経営実績	売上水準	▲22.3	4.1	▲21.0	▲40.7	▲37.7	▲19.7	▲31.0	▲23.6
	利益水準	1.4	15.7	7.0	▲35.0	▲24.6	▲18.4	▲21.3	▲8.8
	在庫	9.6	▲0.9	13.1	6.3	▲1.7	▲30.3	▲2.7	1.9
	投資	▲10.8	▲8.0	▲10.4	▲15.7	▲21.3	▲23.9	▲17.6	▲14.0
	雇用状況	▲16.1	▲51.3	▲16.8	▲10.4	▲25.0	▲24.8	▲17.3	▲20.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		193	169	54	67	316	256	563	492
業況判断	現在の業況	▲60.1	▲68.5	▲22.2	▲28.4	▲64.6	▲73.7	▲59.0	▲65.7
	3ヶ月後の業況	▲77.4	▲84.0	▲60.4	▲60.0	▲67.6	▲76.3	▲70.3	▲76.7
	半年後の業況	▲67.9	▲72.0	▲63.5	▲60.3	▲54.2	▲67.9	▲59.9	▲68.3
経営状況	売上	▲70.3	▲80.2	▲57.4	▲47.8	▲58.8	▲71.7	▲62.6	▲71.3
	採算	▲64.1	▲63.9	▲44.4	▲41.8	▲53.9	▲63.2	▲56.5	▲60.5
	引き合い／客数	▲65.1	▲74.7	▲62.3	▲56.1	▲65.1	▲69.4	▲64.8	▲69.4
	単価	▲16.1	▲29.3	▲17.0	▲10.4	▲59.9	▲62.7	▲40.7	▲44.0
	仕入価格	▲20.7	▲23.8	▲14.8	▲25.4	▲39.5	▲39.8	▲30.6	▲32.3
	資金繰り	▲51.8	▲62.7	▲20.4	▲28.4	▲62.5	▲68.1	▲54.7	▲60.8
	残業	▲66.3	▲66.5	▲51.9	▲44.8	▲63.4	▲52.4	▲63.3	▲56.2
	設備稼働	▲64.1	▲72.1	▲37.7	▲30.0	—	—	▲58.4	▲60.9
前期経営実績	売上水準	▲28.5	▲35.1	0.0	4.5	▲49.0	▲65.1	▲37.3	▲45.3
	利益水準	▲1.6	▲19.0	24.1	▲1.5	▲31.3	▲50.2	▲15.7	▲32.9
	在庫	14.4	7.4	0.0	▲5.5	0.6	▲6.8	5.3	▲1.7
	投資	▲17.6	▲19.8	▲3.8	▲20.0	▲29.4	▲35.9	▲22.9	▲28.2
	雇用状況	0.0	10.2	▲37.0	▲29.2	▲13.3	▲7.8	▲11.0	▲4.4

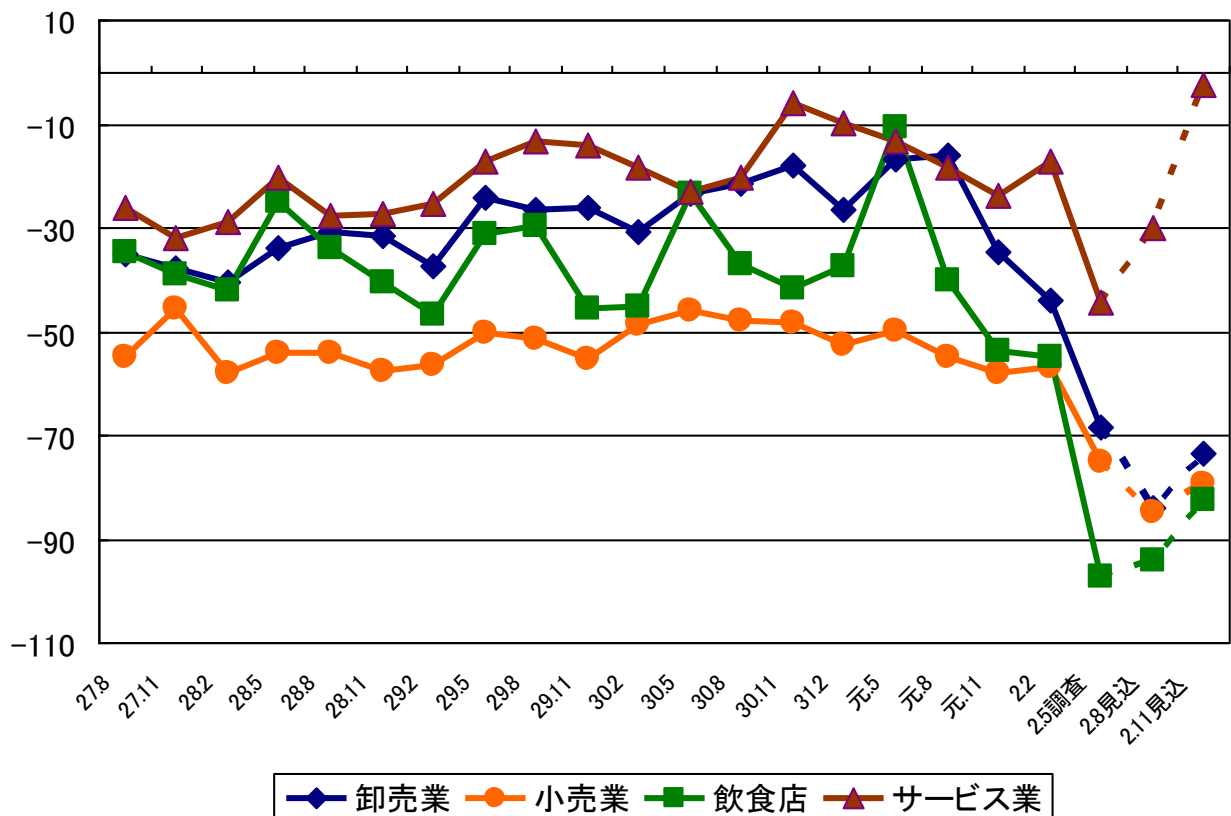
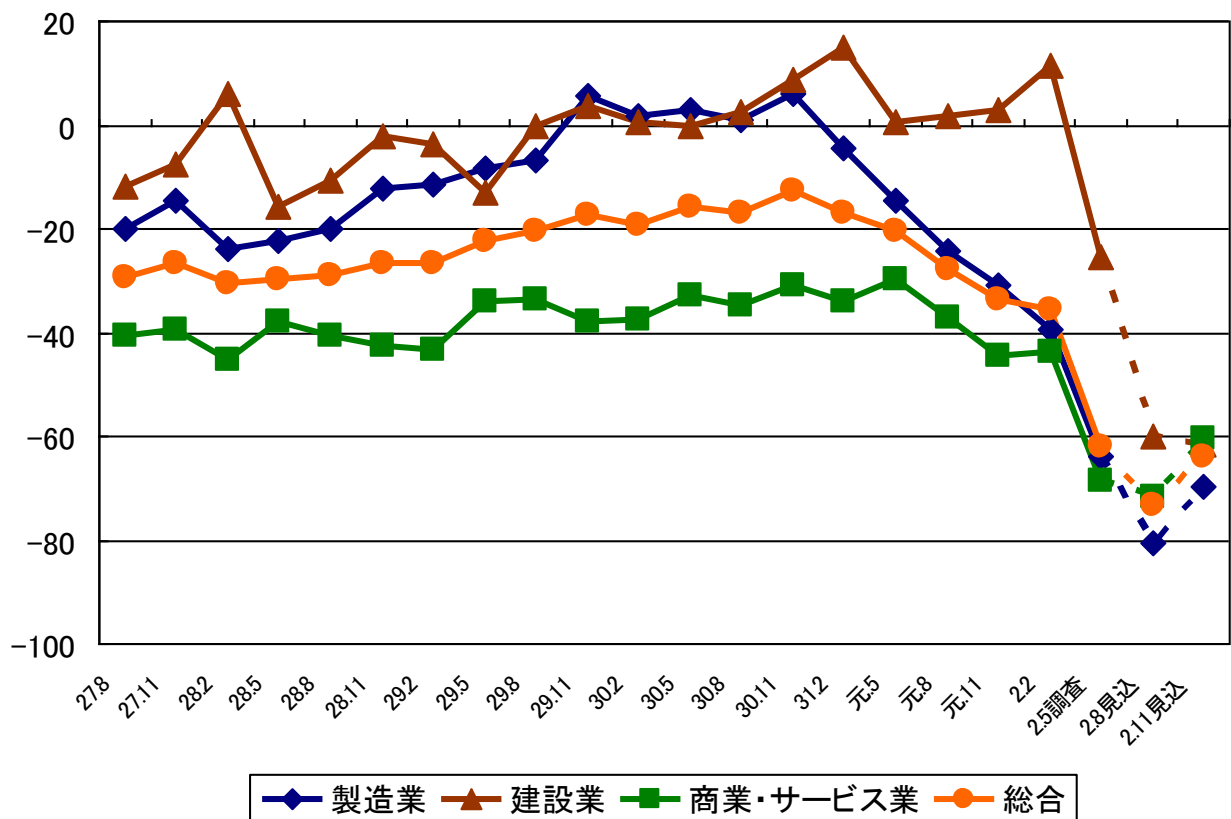
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		276	138	99	106	111	102	119	104	1,055
業況判断	現在の業況	▲64.6	▲47.1	▲56.1	▲63.2	▲64.9	▲58.8	▲67.2	▲74.8	▲62.1
	3ヶ月後の業況	▲77.3	▲66.7	▲62.5	▲76.2	▲76.4	▲77.2	▲68.4	▲76.7	▲73.3
	半年後の業況	▲68.1	▲58.6	▲51.6	▲66.3	▲67.9	▲66.7	▲57.4	▲68.0	▲63.8
経営状況	売上	▲71.9	▲54.4	▲51.6	▲70.5	▲63.1	▲73.0	▲72.4	▲70.6	▲66.7
	採算	▲59.0	▲54.7	▲49.5	▲56.6	▲59.5	▲59.0	▲61.9	▲65.7	▲58.4
	引き合い／客数	▲72.6	▲52.6	▲60.4	▲67.9	▲71.8	▲73.5	▲60.2	▲72.1	▲67.0
	単価	▲45.1	▲40.1	▲38.9	▲39.6	▲40.9	▲40.2	▲37.3	▲52.4	▲42.2
	仕入価格	▲31.5	▲29.2	▲34.0	▲34.3	▲37.6	▲26.0	▲28.0	▲31.1	▲31.4
	資金繰り	▲54.9	▲50.7	▲60.4	▲66.0	▲58.7	▲60.4	▲52.1	▲64.4	▲57.6
	残業	▲59.6	▲50.7	▲43.8	▲64.4	▲62.7	▲69.0	▲67.8	▲63.5	▲60.0
	設備稼働	▲54.8	▲46.3	▲32.4	▲67.4	▲71.4	▲71.7	▲73.3	▲61.4	▲59.6
前期経営実績	売上水準	▲40.9	▲35.8	▲27.6	▲44.3	▲54.1	▲42.2	▲36.1	▲48.1	▲41.0
	利益水準	▲18.2	▲25.5	▲19.4	▲30.2	▲35.1	▲19.6	▲16.8	▲33.0	▲23.7
	在庫	4.2	▲5.9	1.1	2.9	1.9	3.0	2.6	5.9	2.1
	投資	▲22.3	▲22.8	▲22.7	▲26.9	▲41.3	▲27.0	▲18.3	▲26.9	▲25.3
	雇用状況	▲3.8	▲18.4	▲15.8	▲4.8	▲5.5	▲5.0	▲6.9	▲7.7	▲8.0

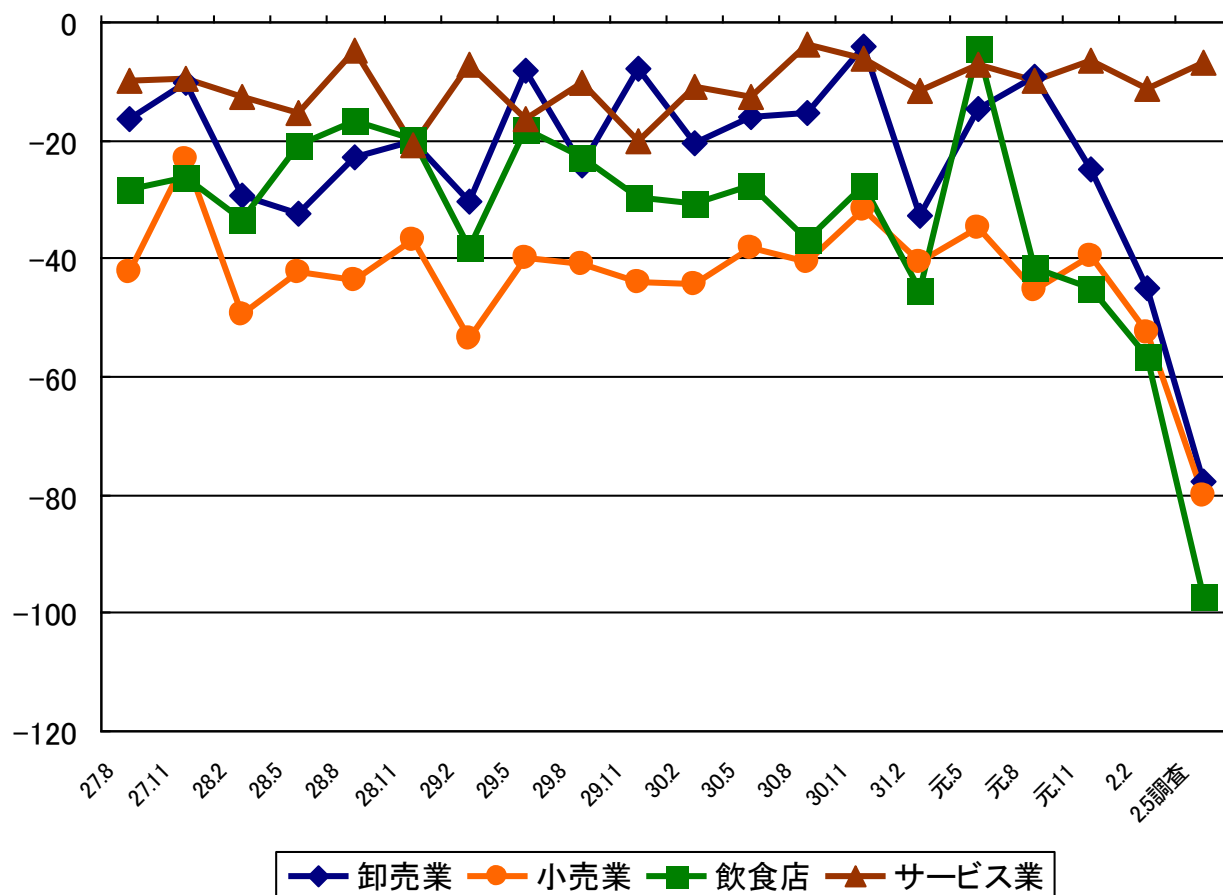
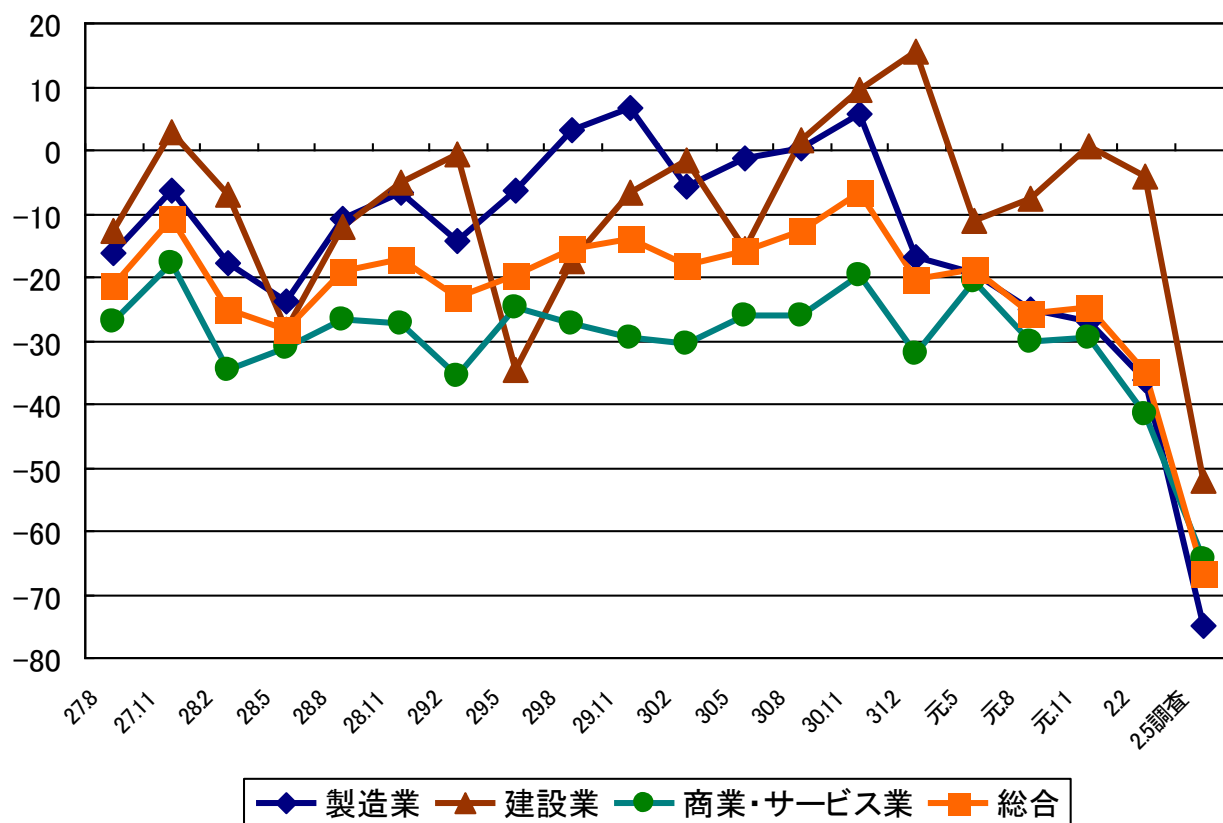
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		92	79	61	130	362
業況判断	現在の業況	▲63.0	▲53.2	▲83.3	▲62.3	▲64.0
	3ヶ月後の業況	▲82.4	▲72.7	▲88.3	▲80.0	▲80.5
	半年後の業況	▲73.3	▲63.6	▲66.7	▲72.6	▲69.8
経営状況	売上	▲73.9	▲75.6	▲81.7	▲72.1	▲74.9
	採算	▲65.2	▲61.5	▲80.0	▲57.0	▲64.0
	引き合い／客数	▲76.1	▲67.1	▲70.7	▲65.9	▲69.6
	単価	▲23.9	▲22.8	▲18.3	▲22.5	▲22.2
	仕入価格	▲24.2	▲19.0	▲16.9	▲25.0	▲22.1
	資金繰り	▲60.9	▲41.8	▲66.7	▲58.6	▲56.8
	残業	▲65.2	▲62.0	▲80.0	▲63.6	▲66.4
	設備稼働	▲62.0	▲65.4	▲81.7	▲66.9	▲67.8
前期経営実績	売上水準	▲34.8	▲25.3	▲36.1	▲31.0	▲31.6
	利益水準	▲3.3	2.5	▲14.8	▲19.4	▲9.7
	在庫	7.0	8.9	10.5	15.6	11.1
	投資	▲18.5	▲15.4	▲16.7	▲21.5	▲18.6
	雇用状況	6.6	▲2.5	6.7	7.0	4.7

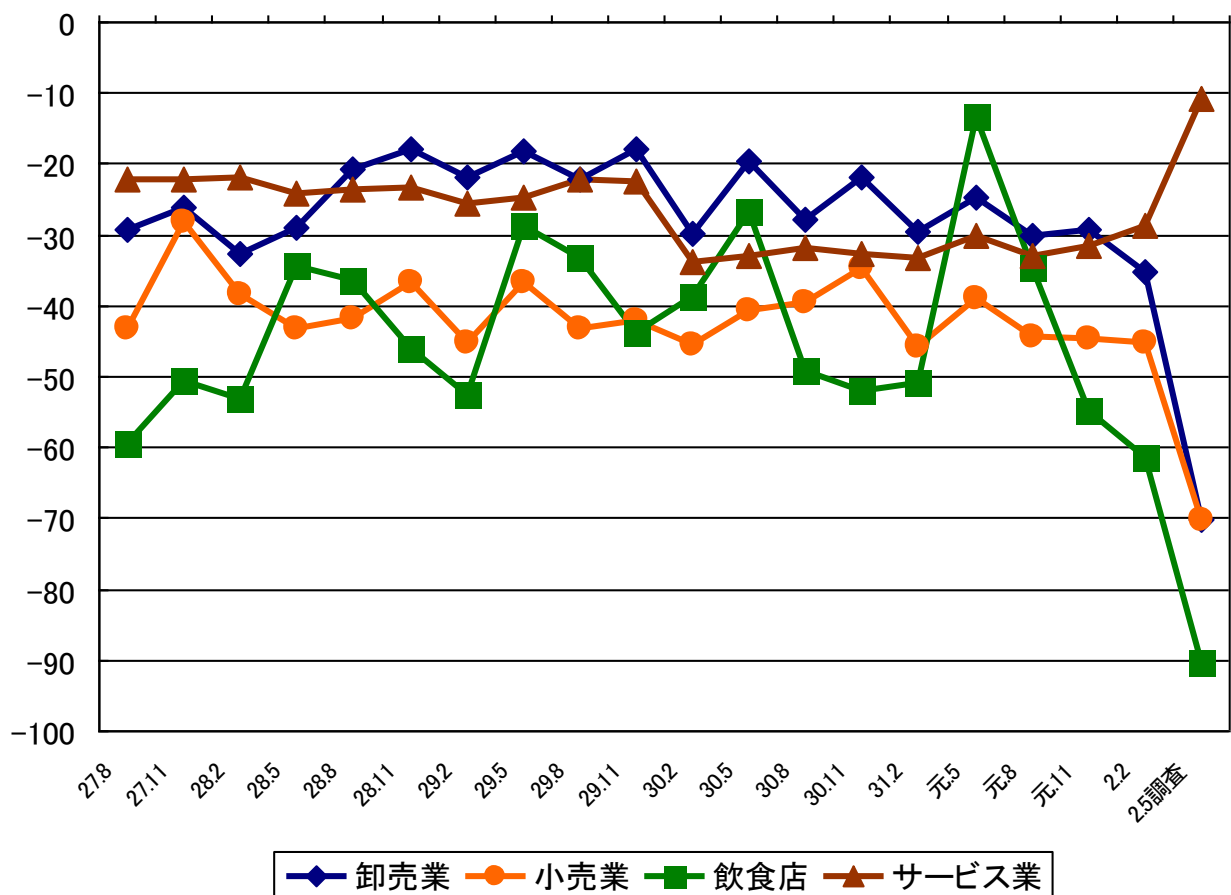
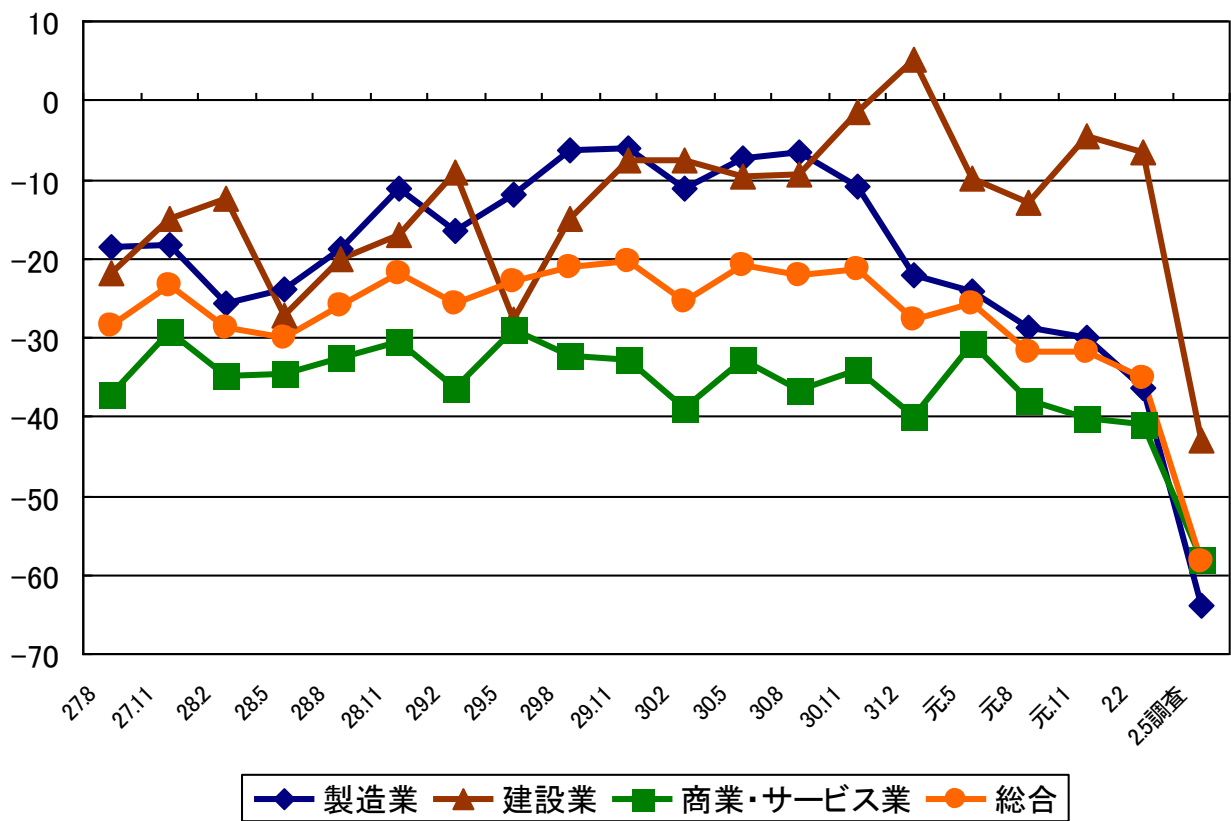
業況DIの推移



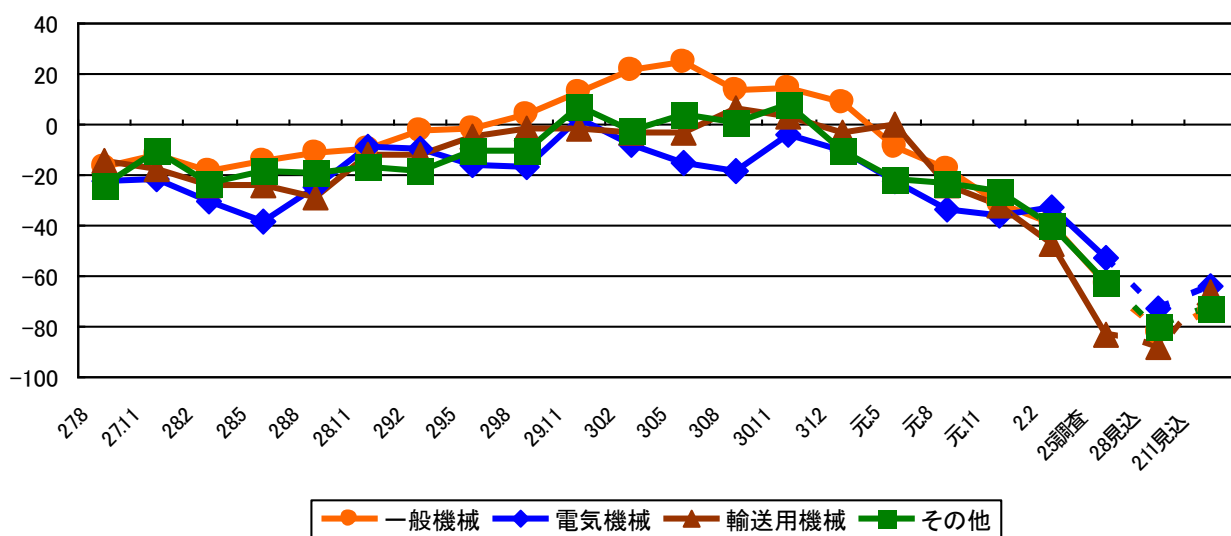
売上DIの推移



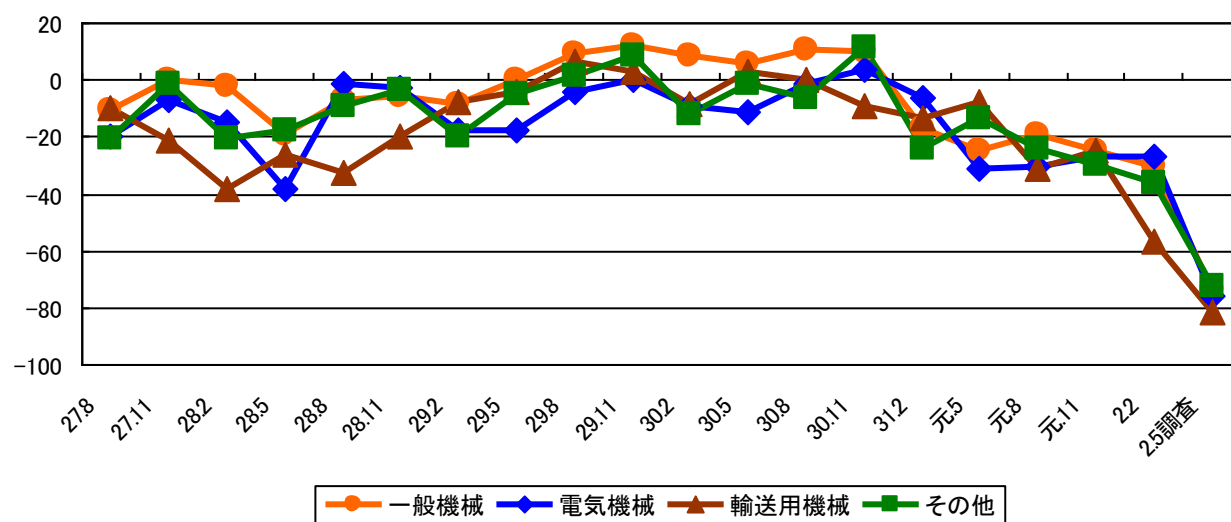
採算DIの推移



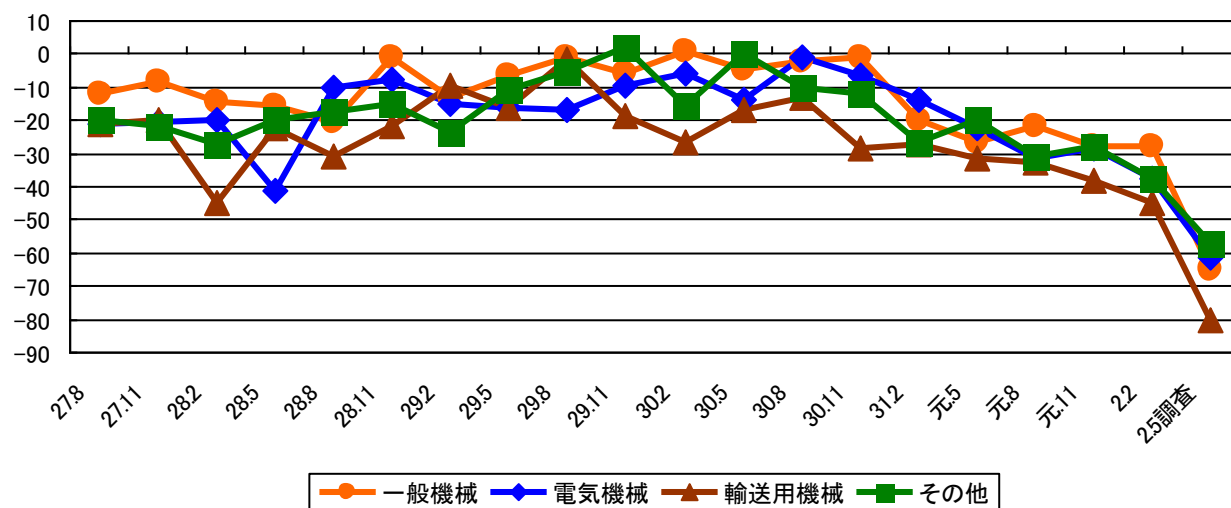
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「エンドユーザーが大手自動車メーカー、建機メーカーですが、国内はもとより海外での生産が停止したり、販売が低下しているため、今後は、大きく減産していく可能性が予測される。」
「2～3月中国の受注減少。4～5月中国の受注回復、国内の受注減少。」
「取引先の外出禁止、在宅ワークが多く打合せや商談が長時間となり、効率が非常に悪い。このままだと売上は確実に落ちてくる。これからの影響の方が懸念される。」
「コロナ影響！アミューズメント（パチンコ）部品注文0に。複合機部品は、厳しくなりました。逆に消毒部品及びマスク部品が新規に発注有ります。」
「緊急事態宣言の為、取引先の休業、関連業種の休業、生産縮小などにより、5月以降の注文状況がまったく見通せない。1～2か月で戻るのか、又は、このまま大不況に陥るのか、様子見である。設備投資も凍結せざるを得ない。」
「4～6月期も、それ以降もだんだん悪くなって行く予想。助成金（雇用調整）、給付金、無利子借入に頼ったとしても苦しい時期が続くのではないか。」
「現在、当社では時間短縮、時差出勤で対応しており、受注も一部止めています。材料も生産中止等で、中々手に入らない状況です。アクリルパーテーション等の受注を優先しています。先行きが不安です。コロナの影響で時短、時差出勤で受注も止めた。今後は、業界にアクリルが不足しているので不透明。」
「米中貿易摩擦で、売上減少しているところに、新型コロナウイルスの影響で、さらに悪化。景気の見通しが立たない。」
「コロナウイルス感染拡大により、日本の製造業を代表する自動車産業への影響が一段と深刻さを増し、それにより弊社も今後、大きく影響を受けるだろうと考えている。とにかく先の見通しが立たない。」
「4月、5月が新型コロナによる緊急事態宣言によって、仕事がぱったり止まった。この先は、見通しがつかないのが現状です。新型コロナの終息を一日も早くできる事を願っております。」
「学校給食関連のため、3月は対前年比60%、4月は対前年比30%の売上になっています。5月も学校給食なしのようです。」
「コロナの影響により、全く先が読めない。開発時間を増やし、従業員の工数のバランスを取っている。個々のスキルアップを図り、終息後の準備をする時期にする。」
「昨年より続いていた米中貿易摩擦に続き、コロナウイルス流行の影響により、顧客からの受注量が一段と減り、先が見えない状況です。」

<建設業>

「コロナの影響で、今後、民間投資が激減する。公共工事の競争率が高くなり、受注が厳しくなる。戦々恐々である。」
「夏以降の受注が、厳しくなる恐れ。下請（職人）の休業も懸念。」
「昨年の台風15号の為、汚泥処理工場が大被害を受け、営業ができない状態である。」
「コロナの影響により一般からの問合せがなくなった。今後の見通しがつかない。」
「現在は、工事中断現場も多く、悪影響を受けているが、今後もホテルや商業ビルの建設設備投資が減る事によるダメージがやってくる。」
「新型コロナの影響により、民間工事の延期・中止案件が出て来ていると他、他公体もコロナ対策に伴い公共工事の見通しや中止等が懸念され、受注の減少により経営状況は当面非常に厳しいと予測する。」
「今後、コロナウイルスの関係で受注のキャンセルや納期繰延が発生してくる。戸建て住宅が売れなくなるのではと心配です。公共事業はなかなか落札できずにいます。労働者の高齢化で、人材不足です。」
「先般のコロナの影響で、先行きが全く見えず。好転する材料は、皆無で、悪い材料がどこまで続くかは不透明。消費税増税、五輪延期、コロナの影響で、悪化の要素しかない。」

<卸売業>

「新型コロナウイルスの影響で、販売先百貨店が休業の為、また、直接小売も自粛の為、売上が80%以上減っている。」
「自転車、小型バイク類が生活の足としての売上がなんとか保持しているが、消費者の可処分所得が、明らかに減っている。単価が下がり始めた。」
「売上が減っているのではなく、売上が無いです。」
「コロナ対策関連の製品売上増。」
「3月までは、官公庁向けの需要があり、業績は昨年並みでしたが、今後、新型コロナウイルスの影響でレジャー需要は大きく落ち込むと思われます。」
「コロナ前に受注した商品売って、現状はしのいでいるが、今後の受注がどう変化するか不安。仕入が安定的に供給されるかどうか不安です。」
「新型コロナウイルスの影響で、ホテル、病院、学校等への納品数量が減少している。特にホテルは、4月に入って0です。」
「コロナの影響大です。一部恩恵を得ている業種もありますが、トータルでマイナスです。」
「外食産業のお客様が休業しているところがあるので、業績不調。今後も厳しい。」

<小売業>

「世界危機と言っても過言ではない。新型コロナウイルス10月の増税でダブルパンチを受けた感じです。」
「商品が不足している。中国からの部品がないので、製品が出来てこない。コロナで人が出てこない。」
「この状況がいつまで続くのかわからず、先の見えない不安な毎日が続いています。品物の入荷、納期がわからないものがあり、仕事に差し支えています。そして夏に向け、イベント中止の連絡が入ってきております。とても心配です。」
「新型コロナウイルス拡散防止の為、時短で営業をしていますが、外出を控えての世の中の動きの通り、全く人通りも無く、店の経営は成り立たなくなっています。今後も見通しが立たないか？。状況を見ながら、その場その場で判断した作戦を実行していく予定です。」
「「緊急事態宣言」の為、学校給食、飲食店等、売上ほぼ無し。3~4か月継続すると、資金的に倒産の恐れあり。借り入れしても、返済のめど立たず!。」
「コロナの影響多分に受け、注文全て0に近い。心配です。年内通してのかき入れ時期なのに全く最悪です。」
「自粛の影響がボディブローの如く、資金繰りの悪化が出て来ると思っております。社員の生活の安定と雇用を守る為に、本番はこれからだと思います。」
「営業時間の短縮（新型コロナウイルスの影響）を余儀なくされ、売上、粗利の低下。」
「外出自粛、営業自粛で4月は、売上半減以下。5月も連休の客数が例年の1/3位。預金の切り崩しも限界。3月末では、キャッシュレス化に伴う5%還元で好調だったが。」
「百貨店等が出店場所のため、コロナの影響で、1月から売上落ち、4/8~営業出来ず、6月中旬までは、ゼロに近い状況。」
「コロナの影響により、来店客数が激減している。ネット通販が多少向上しているが、不透明な今後が心配です。」
「新型コロナウイルスが終息しなければ、先が見えないです。今までの経営のあり方を大きく見直さないと生き残れないでしょう。」
「コロナウイルス関係で、消毒の売上が大幅UP。売上の一部を社会福祉協議会に寄付したいと考えています。」
「飲食店が顧客の70%を占めている為、売上が激減です。家飲み的一般のお客が増えましたが、全体から見ると僅かです。今年一杯は、厳しい見通しです。」

<飲食店>

「コロナの影響で、時間短縮営業が続き今後、乗り越えられるかどうか?!。」
「コロナウイルスの関連で自粛。宴会、イベント（出張パーティー）100%キャンセル。売上90%減少。」
「コロナウイルスで、3月下旬から4月までの予約が全てキャンセルとなった。スタッフの安全も考えて、4/13~休業（今現在も）。当面の資金繰りに加え、営業再開後も大変深刻です。」
「営業時間の短縮や休業などにより、通常では考えられない程の業績悪化です。今後の見通しも立ちません。」
「コロナウイルス感染拡大が、今後も続きそうです。3月の年度末は、多くの予約があったが、すべてキャンセル。客足が激減で、今はテイクアウトに望みを託しています。」
「新型コロナウイルスで、業績が悪化すると思っていたのですが、思いの外悪くなく、昨年の大型連休よりも売上が良い。持ち帰り、出前の注文が増加している。」
「今後は、分社化、一部廃業も視野に入れている。新型コロナウイルス禍は長期化が避けられないと考えている。」

<サービス業>

「新型コロナウイルスのために、客数激減、過去最大の不況。」
「自動車メーカーの動きに左右される。下請、孫請のユーザーが多いので、軌道に乗るまでに時間がかかると思われる。影響大、3、4か月赤字となる予想。」
「オリンピックの延期、コロナの影響等、将来の不確定要素が増している。」
「令和2年3月頃から、コロナの影響が出始め5月になりさらに悪くなっている。お取引先の廃業や休業の影響が、今後強くなってくると思われる。」
「新型コロナウイルスの影響で、オリンピックが延期になり、それに伴い5G無線技術の導入が遅れ、IT業界全体の活力が低下していると見ています。当社も3か月・半年後には業績が悪化すると見ています。」
「展示会・相談会・講演会がすべてキャンセルとなり、新規営業や対面フォローアップができなくなり、営業機会が激減しました。今後は、オンラインの活用を広げていきますが、社会全体がコミュニケーション支援に費用を掛ける事を含め、新たな取り組みに消極的になっているので、回復までに時間がかかりそうです。」
「イベントが全てキャンセルで仕事なし。違う形に業務を移行しなければならないタイミングの様です。」
「コロナの影響は、大きいと思います。今後1、2年は難しいかと考えます。また新入社員も増やした事で心配です。」
「新型コロナウイルスの関係で、2020年1月より、お客様の減少と販売の動きが悪くなっています。今、出来る事を仕事準備として、時短営業で行っています。」
「国内企業・諸外国が動き出さないと、景気は良くならない。」